



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 小島友ビル6階
東京都文京区林友ビル6階
〒112-0004
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価・年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

第60回定期総会を開催
新たな木材利用分野への対応、
広域流通体制づくりを!

当連盟は5月18日(月)、第60回定期総会を江東区(東京)のホテルイースト21で開催した。出席者は、会員104名(委任状62名を含む)。来賓として林野庁沖修司次長、木材産業課小島孝文課長、業務課今井英策企画官、全木連吉条良明会長、林業協会前田直登会長、農林漁業信用基金津元頼光副理事長、住木セクター岸純夫理事長、日本木材総合情報センター松本有幸理事長等にご出席頂いた。大会では、全市連会長賞の贈呈のほか26年度の事業報告、同決算が決議された。また退任届の出ている一部理事の後任を選任し、大会宣言を採択した。

開会宣言・開会の挨拶

花尻副会長(近畿支部長)は黙祷の後、「林業、木材産業の課題解決に向け、全市連として、全力あげて取り組もう」と開会宣言した。

市川会長は開会挨拶で、「平成二十七年年度の我が国経済は、「緊急経済対策」などの取組等により、雇用・所得環境が引き続き改善し、好循環が更に進展するとともに、堅調な民需に支えられた景気

回復が見込まれるとされてる。住宅・木材について見ると、三月の新設住宅着工戸数は、前年比(0.7%増)と1年ぶりに前年同月を上回った。木材市況については、構造材中心に、需要不振で在庫の増、市況の軟調が続いている。今後、原油価格急落の広範な分野への影響、年間新築着工戸数八十万户後半という予測の中の為替の円安傾向の継続や木質バイオマス、CLT、大型製材工場・合板工場の新設及び国産材輸出など新たな木材需要分野の拡大など、不透明な要素が益々増加し、激動の時代のはじまりという様相を呈している。国の施策において、「地方創生」が重要な課題となり、林業は、成長化産業に位置付けられ、補正予算・新年度予算案においても、木材需要拡大に係る事業等が充実され、新年度税制改正においても、木材加工業・木材市場業についての軽油引取税の免税措置が延長されることとなった。森林・林業白書において、木材の生産・流通体制整備の重要性が認識され、木材産業が取り上げられ、木材市場についても、書き込まれると伺っている。2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向け関連施設木造化・木質化についてもご尽力いただいている、中高層建築物の木

造化・木質化に向けての取組も進んでいると伺っている。このような、追い風を受けて、私も市売関係者も関係団体及び行政とも連携し、木材需要の拡大、木材の安定供給及び日本の木の文化の普及・発信等に努めよう」と述べた。



市川会長挨拶



会長賞受賞者

来賓祝辞

沖修司林野庁次長から、日頃の支援、協力に対する御礼、表彰受賞者へのお祝いのほか、概要以下の御挨拶を頂いた。「人工林の多くが本格的利用期を迎え、森林資源を循環利用し、林業の成長産業

化を実現することが重要。地域での雇用の創出や活性化を通じ、地域創生にも貢献するもの。林野庁では、新たな木材需要創出に向け、CLTや耐火木材など新たな製品・技術の開発・普及に取り組んでいる。CLTについては、現在、国土交通省と連携して、建築基準の整備、施工ノウハウの確立、国産CLTの生産体制の整備などを進めており、昨年、CLTの普及に向けたロードマップを公表した。公共建築物木造化や木質バイオマスエネルギー利用等のほか、木材・木材製品輸出にも取り組んでいく。ミラノ万博では、日本館外壁に国産カラマツ集成材を使用した木格子が使われている。日本の森林・林業・木材産業を世界に発信するよい機会であり、木材製品輸出の促進にも資するもの。また、国産材の安定供給体制の構築が重要で、需要構造の変化に対応できる原木や苗木の供給体制の強化を図るため、木材の需給等の情報共有を目的に関係者が横断的に集う協議会を開催するほか、施業の集約化や路網整備の促進を進めていく。更に、2020年東京オリンピック・パラリンピックの競技施設等において国産材が利用されるよう林野庁としても鋭意取り組んでいきたい。森林・林業・木材産業は、多くの可能性を秘めた成長分野であり、行政と関係者が連携し、地域の実情に応じた戦略を立て、創意工夫しながら、森林・林業・木材産業の再生・成長産業化に取り組んで参るので、一層の御支援・御協力をお願いする。」

大への取組に対する敬意、木材利用が環境貢献だけでなく地域経済活性化・地域創生に重要な役割を果たすことへの理解の広がり、木材利用ポイント事業等による国産材利用拡大への理解等の進展、今後、木材の耐火性能等課題克服・木材を優先して利用する社会づくりの必要性、全森連との「ウッドファースト社会の実現」に向けた共同宣言等に触れ、今後とも先頭に立って取組んで行く旨御挨拶を頂いた。



来賓

【議事】

議事は、中国支部長の山下薫氏（真庭木材市売株式会社）を議長にして進行した。

第1号議案 26年度事業報告及び決算承認の件

平成26年度は、関係団体と緊密に連携しながら、木の良さのPRや木材利用推進のための人材育成、木造住宅や公共施設への木材利用拡大に取り組みむとも

に、木材流通の活性化、市場機能の強化の取り組みを行った。

26年度決算は、経常収益計2,730万6千円、経常費用計2,537万7千円となり、当期正味財産192万8千円の増となった。また公益目的支出計画は、ほぼ計画どおりの実施となった。内閣府へは、その旨を報告する。

定款第22条の規定に基づき、萩原宏監事より、決算等の内容は適正であるとの監査報告を行い承認された。

第2号議案 平成27年度事業計画及び収支予算の報告の件

一般社団法人化に伴い、事業計画及び収支予算は、理事会の決定事項となり、3月の理事会で決議済みである。大会宣言に、そうした内容を盛り込んだ旨を報告し、承認された。

第3号議案 役員改選の件

一部理事からの辞任届を受け、その後理事の選任については、各支部の報告をもとに作成した候補者名簿を提案し、承認された。理事の交代は以下のとおり。関東支部・山田実（東京新宿木材市場（株））↓萩原友隆（同）、早川淳（株）

東京第一木材市場）↓大島誠（同）、東海支部・簗政廣（岐阜県銘木（協））↓吉田芳治（同）、近畿支部・下西昭昌（吉野木材（協連））↓丸谷隆久（同）

第4号議案 その他 次期総会の開催地は東京とすることを提案し、承認された。

【大会決議】

奥羽支部長の工藤茂丸氏（秋田中央木材市場社長）より、新たな木材利用分野への対応、広域流通体制づくりに取り組

むなどを内容とする大会宣言案を提案し、満場一致で採択された。

【閉会の言葉】

西垣泰幸副会長（東海支部長）が、NHKの大河ドラマを引き合いに出して、「これまでのやり方を固守することなく、若い人たちの新しい発想を取り入れてゆこう」と語り、総会を終えた。

【大会宣言】

私たち全市連会員は、本日ここに第60回定期総会・東京大会を開催した。

森林資源が充実し、木材利用拡大及び供給体制整備が重要課題となっているが、日本林業の構造的要因や労働者不足などがあり、これらは林業・木材産業挙げて取り組むべき課題である。

また、国産材の利用拡大のため、国産材の安定供給と需要者の信頼確保が重要であることは論を待たない。

木材流通に大きな役割を果たしている木材市場として、全市連会員は、これまでの経験と実績を活かし関係団体とも連携して需要変化に柔軟に対応できる安定供給体制づくりに取り組む必要がある。

こうした認識の下、政府に対し素材生産・流通・加工対策の一層の充実・強化や木材利用拡大対策、消費回復策を強く要請するとともに、自ら、次の事項に積極的に取り組むものとする。

一 木材市場の商流機能の充実強化を通じて、国産材並材等の広域流通体制づくり、新たな木材利用分野への対応に取り組もう。

一 東日本大震災からの復興支援に向け、風評被害対策や地域材の利用拡大に取り組もう。

一 公共建築物等の建設に必要な合法証明木材及びFIT制度に不可欠な木質バイオの供給体制づくりに取り組もう。

一 JAS製材品等のPR、円滑な供給体制づくりに取り組もう。

以上、宣言する。

【記念講演会】

東京大学森林利用学教室 酒井秀夫教授から「林業・木材産業のサプライチェーン構築」と題して概略以下のような御講演をいただいた。

・安定供給が求められているが、山側の課題は、人手不足・人材確保、事業育成（雇用の受け皿）、森林所有者の山への関心（林業収入確保）であり、生産性向上と低コスト化を図る必要がある。

・森林資源の成熟Ⅱ林業の物流の時代である。林業・林産業のサプライチェーン



講演会映像

の構築。生産と流通改革が必要。木材の一括大量利用、A材需要開拓、未利用材の残材の有効利用をめぐっては、新しいチャレンジの時代を迎えている。

・これまでは、A材だけの利用を基本としていたが、これからは全木集材の確立

資源のフル活用の時代。

・長期にわたる持続的集荷システムの構築。安定供給。個々の現場からの材の寄せ集めから、持続的集荷回収というフローシステムの構築へ。伐採・木寄せ、

破碎、輸送における各作業主体の明確化とコスト目標の設定、集荷圏の確立が必要。

・サプライチェーンの確立のためには、事業量の安定確保（＝事業者の育成）による機械投資と雇用の確保、同時に森林所有者の所有山林への関心を高め、森林整備と連動させる必要がある。

・林業ビジネス化。サプライチェーンの構築。まず出口の確保が必要。長期には、地域林業形態の確立と幹線・支線の路網整備、中期では機械化整備、トラック配車、土場計画、レンタル・リースなどの社会システム、団地化集約化施設、短期的には作業システムの戦略を立てる。

・「売れないものは作らない」「流通は単純で、在庫は少ないのがよい」というのが製造業の鉄則。林業の場合はどうか？

・サプライチェーンを組み立て、動かし、血の通ったものにしていくには、組織を越えて司令塔となり窓口となるコーディネーターが必要。コーディネーターは中立の立場をとり、木材を消費者に届けることで利益を生み、利益は川下を通じて山元

川下双方に行き渡ることができれば理想。そのためには情報交換ITが必要。

・IT時代になり、メーカーが顧客の視点を持って消費者を直接知ることができるようになった。

・エレクトロニック・ハブによって、複数の素材生産事業者と工場間で、集材量や需要に対する情報を共有し、木材利用や素材生産現場の割り当てを最適化できる。小規模企業も参加可能。共通のプラットフォームと協力体制を形成し、コスト節減、合理化、自動化の実現が可能となる。工場側はリアルタイムで林内と土場の在庫を把握することができる。

・需要と利益予測のもとに、需要と供給のバランスをとっていかねばならない。需要予測のもとに利益率の高い製品の生産を振り分け、サプライチェーンを動かしていくことができれば理想。地域としては、幅広く懐深い森林資源、柔軟さと機動性が必要。

・顧客である消費者の期待をモニターし、消費者の注文、要求を満たしていかなければならない。顧客には製品の性能も宣伝し、納期、製品のサービスを売る。リスク管理も必要。納期の遅れや機械の故障などに迅速に対応することが求められる。顧客の要求をキャッチし、自社の実力の中で最適化を図ってそれぞれの生産体制を支え、ビジネス戦略を進展させていく。注文に対し、生産能力をわきまえた上で、コストや利益を最善にする。資源の成熟化に伴い、高齢級択伐材、間伐材優良材の市場開拓と顧客の獲得が重要で、無用な価格競争に巻き込まれない商品の保有を目指す。

・正確な需要予測と分析、顧客管理にITが不可欠。注文状況の把握、事務処理にはITが必要。注文をフィードバックしながら、企業側の提案も必要。ITの活用により、反応時間が短くなり、在庫のロスも少なくなる。ITはサプライチェーンを効率良くし、サプライチェーンのデザイン、戦術を支え、製品に価値を付加し、それを可視化できる。統合化、総合化された情報の管理、活用と、組織や地域内の共有の知識伝達を前提にして、木材輸出も視野に入れた長期計画や中期計画も可能となる。情報と知識管理は、熟練経験の短縮化を図り、人材の質を高める。計画だけでは不安定要素が含まれる生産工程には対応できないので、ITを活用し、かくれた情報を引き出す。

・サプライチェーンにおける集材工程において、素材生産現場と納品先の双方にとってITを活用し、木材が望ましい品質で、タイムリーに複数の工場に供給可能とし、売上げを最大化する。

・製造工程では、丸太から製品への転換が重要工程。市場や注文に応じて価値あるものに加工する品質管理体制が重要となり、製品開発と生産計画を統合化する能力も求められる。そのための人材確保も重要。

・サプライチェーンに関わる人材育成としては、森林経営計画と安定供給に向けた生産計画に関わる人材育成（＝フォレスト）と、川上と川下を結ぶ地域のコーディネーターとステークホルダーの人材育成、路網整備計画の人材育成が必要となる。

・林業の近代化に向けては、利益ハブ

ラックボックスの内部構造を改める必要がある。工程ごとのコスト管理。森林所有者との信頼関係。原価の透明化。ビジュアル化につとめ、人工積上方式vs工程別単価方式の長短を明確にする。

・林業は流通の時代！多様化した消費者と多様な製品、複雑系処理にITが必要。

・中間土場は、複数の現場（自社に限らない）をカバーする最適ロケーションにプール拠点を置く。地理的条件、市場規模と立地条件を見極める。荷物の絶対量を増やし、荷物をコンスタントに確保することで、輸送車両の回転率と積載率を高める。

・ロジスティクスサポートは輸送と在庫管理に関わる。効率的で無駄のないトラック配車システムにより、山側にも工場側にもメリットを生む。大形機械の年間ローテーションにも寄与する。

・消費者情報を生産工程までフィードバックさせることにより在庫が極限まで減り（輸送総量の減少）、リードタイムが短縮される。また、中間土場と一体化したサービスと利益率向上を図り、運送の収益性も向上させる。運送では利益が出なくても、運送と組み合わせることでトータルでの仕事が可能となる（仕事の創造）。

・運送から物流へ、物流から商流へ。生産行為、販売行為、物流行為をトータルした効率的な経営のメカニズム。物流がなくなることはない。しかし、生産と販売のあり方によって物流を必要最小限にする。

・今日の時代に合わせた原木市場の活用、「チャレンジとアクションを!!」。

■九市連 第56回定期総会 を開催

九州木材市場連合会（会長・佐藤耕三・肥後木材（株）代表取締役社長）の第56回定期総会が5月13日（水）、熊本市のKKRホテル熊本で開催された。出席は会員のほか、来賓として、九州森林管理局の狩野誠地域木材情報分析官、同資源活用課の石原拓弥係長並びに熊本県江上憲二森林局長等にご出席頂いた。全市連からは小合が出席。

総会では、平成26年度事業や決算が報告され、また、原木・製材品の消費拡大、製材品品質確保及び安定供給体制の整備並びに原木の安定供給体制整備に取り組むことなどを内容とする平成27年度事業計画・同収支予算案が承認された。

また、中央情勢報告や各県における原木、製材品の市況・取引についての報告が行われた。

【会長挨拶】

開会に当たり佐藤会長より、概略次の挨拶があった。

「今後の課題は、非住宅分野における木材需要（CLTなど）、原木・製材品の輸出、合板・木質バイオ活用に対する安定供給。昨年度は、「九州地域広域原木流通協議会」としても活動した。九市連として、国・県・森林組合・生産流通及び建築サイド等と情報交換等して新しい動きに対応し業界の活性化に努めてゆく。」

【来賓挨拶】

・来賓として出席頂いた九州森林管理局・狩野分析官から、ご挨拶を頂き、公



九州連総会

益重視の管理経営の一層の推進、九州からの森林・林業の再生として再造林促進に向けた取組、木材安定供給体制確立に向けた取組、森林・林業の再生を支える人材育成と技術普及等について説明された。

【議事】

議事は、26年度の事業報告、決算、27年度事業計画、収支予算の決定のほか意見交換が行われた。

■木材アドバイザー養成講習会を終えて

・安田栄子さん

材木の市場に勤めて18年。業務は、総務・経理事務をしております。あまり木に触れることもなく、日々パソコンと向き合っている仕事をしています。ある日、取組と話をする機会があり、「もっと材木について知りたい・勉強したい」という発言をしたところ、薦められたのが木

材アドバイザー講習会でした。講義を受けることなども数十年前のこと。不安を抱えながらもついに期待しつつ受講。「1日目」9:30から19:10まで、びっしり詰まった講義内容。講師の先生方は、大学教授や業界で有名な方々ばかりで、専門用語も多く、スピードも早い。聞きなれない言葉の連続で戸惑うばかり。周りの方々は、スマホでスクリーンに映し出される重要点を、カシヤカシヤ撮影、私はと言と、ただひたすらノートに筆記。帰りの電車で見返すも読めない字が有り、復習もままならず。「2日目」9:00から15:00まで講義の後、1時間のテスト。「後10分です」と言われた時に半分しか終わっていない状態で心臓バクバク。後は斜め読みで（ごめんさい）適当に○×しかありませんでした。正直、私にはハードルが高すぎました！。自己嫌悪に陥った2日間でしたが、良い経験ができたと思っています。（事務局注…安田さんは見事、木アドの試験に合格しました!!）

・菊地 實さん

平成二十六年度木材アドバイザー養成講座を受講した。六カリキュラムを一講座約二時間で二日間。これだけ集中した時間を過ごしたのは学生時代以来久しぶりである。受講終了後、安堵感があるのは、研修の締めくくりに試験があったことめだろうか。最後の試験で苦しんだことも含め二日間を振り返ってみたい。事前日程表が送られてくる。タイムテーブルは切れ目なく構成されていて最終日の終了時間が十六時であることを確認。ちよつと長いと思ったが、講師の名前を

見て納得する。一人でも講演会が出来るぐらいの錚々たるメンバーばかりである。最新の知識や情報を習得できるチャンスと期待感が高まる。そして研修初日、簡単なオリエンテーションの後、講義がスタートする。基礎的な知識を丁寧に教えてくれる。過去の問題を浮き彫りにして現状の木材産業の課題を率直に指摘もされる。本質的な問題に取り組みむ必要性と目指すべき方向性を各講師がそれぞれ立場で示される。木材流通、林業、市場等広く木材業に関わる人にとって「なるほど、そうだったのか。」と思える内容ではないかと感じた。そしていよいよ締めめのテストに立ち向かう。テキストを見ても可である。問題を見ると、字数がびっしり。パラパラとめくるが、ボリュームたっぷり。問題は約七十問、時間は十分なので一問一分かけられない。さあ、スタート。記憶が確かな講義からと考え、後ろの問題から解き始める。わからない問題は、深く考えず飛ばす。しかし何らかの回答は必ず記入。自信がある時は○、不確かな時は△、まったくだめな時は×と問題頭部に表記。後で△を優先的に見直しして、ひとつでも○にするように粘る。テキスト「木材アドバイザーの手引き」はめくりまくる。終了と同時にどつと疲れが出る。そして今、合格通知が来た。大変だったが、確実にスキルアップしたことを実感できる。この費用でこの内容は素晴らしい。試験はもう充分だが、各講義はもう一度聞きたいと思う。これから受講される方々、自己研鑽の機会として最高の講座である。自信を持ってお勧めしたい。